

第1章 札幌博物館の使命

平成 13（2001）年に策定された「札幌市博物館基本計画推進方針」以降、私たちを取り巻く生活環境、社会環境が変わり、それに伴い、私たちの価値観も変化してきました。平成 13（2001）年以降の博物館活動センターの活動の総括と社会背景を踏まえ、札幌博物館の使命についてまとめていきます。

1. 札幌市博物館活動センターにおける活動の成果と課題

札幌市博物館活動センターでは、平成 13（2001）年 11 月の開設以来、収集・保存や調査・研究などの活動を推進してきました。

（1）収集・保存

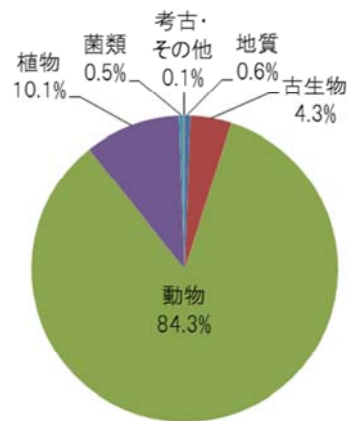
現在までに札幌の自然と人の関わりを探求するための基礎的資料がおおよそ 9 万点、収集・保存されています。一方、資料の分野は動植物が 90%以上と偏りがみられます。また、増加する資料を収蔵するためのスペースは限られており、施設の狭隘化も課題です。

■資料数

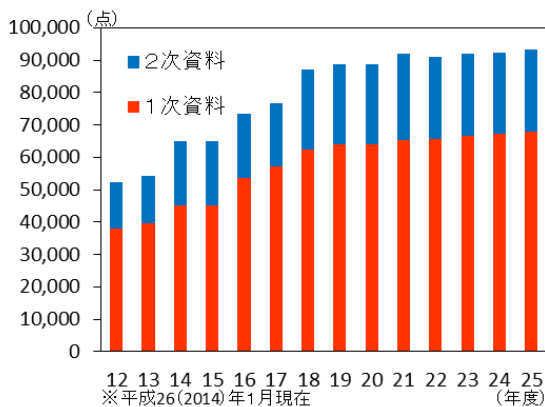
区分	一次資料	二次資料
地質	422	7,888
古生物	2,876	4,966
動物	57,161	0
植物	6,842	12,482
菌類	633	0
考古・その他	45	0
小計	67,979	25,336
合計	93,315	

※平成 26（2014）年 1 月現在。※動物は昆虫を含む。

■一次資料²の内訳



■資料点数（年度別累計）



棚からあふれ、床に並ぶ資料

² 一次資料：実物資料を指す。二次資料とは実物以外の資料（写真、地図、文献、書籍等）をいう。

(2) 調査・研究

「サッポロを知る」「サッポロを結ぶ」「サッポロから広げる」「サッポロによせる」「サッポロを楽しむ」をテーマとし、5大プロジェクト³を実施してきました。サッポロカイギュウの化石を小学5年生の女子が発見（平成14年）するなど、調査には子どもたちをはじめとした多くの市民が参加し、成果をあげてきた実績があります。

■ 5大プロジェクトの取組み

テーマ	具体的な取組内容	H13年度 2001年	14年度 2002年	15年度 2003年	16年度 2004年	17年度 2005年	18年度 2006年	19年度 2007年	20年度 2008年	21年度 2009年	22年度 2010年	23年度 2011年	24年度 2012年
サッポロを知る	藻岩円山植生調査 藻岩山動物生息調査			報告書発行					報告書発行				
サッポロを結ぶ	自然モニター 「札幌市セミ調査」										リーフレット発行、配布		
サッポロから広げる	厚田産ハクジラ化石 大型動物化石総合調査 小金湯産クジラ化石 石狩低地帯クジラ化石群				復元骨格標本作成、報告書発行、 学会報告、論文発表						学会報告、論文発表		出前展示
サッポロによせる	豊平川魚類調査 豊平川水生昆虫調査 豊平川水生植物調査						報告書発行						豊平川さけ科学館と協力し、継続中
サッポロを楽しむ	自然探究サポート事業												各年度、成果展示、公開発表会開催

発見が活動を、その活動が新たな発見を生む札幌の化石

平成14（2002）年まで、札幌からは大型動物の化石が発見されることがありませんでしたが、この年の夏、当時小学校5年生の棚橋愛子さんが豊平川の河床で大きな動物の肋骨を発見し、お父さんに報告しました。翌年の夏、その情報が、博物館活動センターにもたらされ、平成15（2003）年に発掘、平成16（2004）年から3年にわたり「大型動物化石総合調査」を実施した結果、世界最古の大型海牛であることが判明、「サッポロカイギュウ」と命名されました。平成20（2008）年、サッポロカイギュウの発見地点からおよそ300m上流から、今度はクジラの化石が発見されました。発見者の森和久さんは、ウェブで札幌市博物館活動センターがサッポロカイギュウを研究したことを知り、化石を持参。中新世（およそ1000万年前）では最大級のクジラ化石で、学術的に貴重な発見であることが判明し、現在研究が進められています。



発見時のサッポロカイギュウ



発見時の小金湯産クジラ化石

活動が市民に浸透することで発見を生み、発見が新たな活動を生み出すことで札幌の自然の魅力が明らかにされた事例であり、活動こそが博物館の原点であるという好事例です。

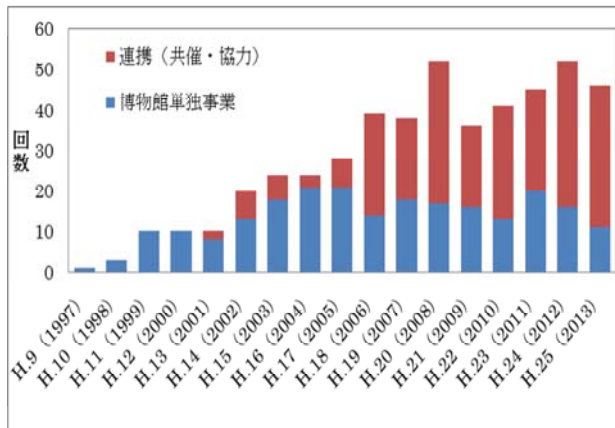
³ 5大プロジェクト：平成13（2001）年に策定された『札幌市博物館計画推進方針』において、開館準備期における活動の指針として設定された5つの重点事業。

(3) 普及・交流

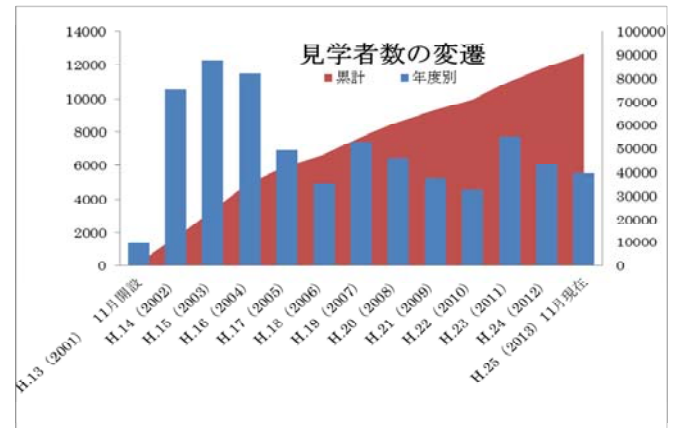
市内様々な場所で行う出前展示など地域に活動場所を広げる事業や、市民グループと連携したフォーラムなどの事業が増えています。また、市民が自主的にボランティアで標本作製を行ったり、科学絵本の読み聞かせのような定期的な催しを企画・実施したりするなど、博物館活動センターが市民の活動の場として利用されるようになってきています。

一方、来場者数が減少傾向にあることや、講座回数は増加しているものの活動センターの学芸員は2名（古生物学と植物学）と少なく、多様な分野や目的に応じたプログラムが行えていないことなどが課題といえます。

① 実施事業回数（年度別）



② 見学者数（年度別及び累計）



科学絵本の読み聞かせと学芸員の井戸端サイエンス

子どもとともに博物館活動センターの行事に参加した母親の発案により始まった取組で、博物館活動センターを会場に、毎月1回異なるテーマの絵本の読み聞かせを行い、あわせて学芸員がテーマに関する実験や観察を交えた解説を行う事業です。



市民グループと連携したフォーラム（サイエンス・コンソーシアム）について

平成22（2010）年度に市民グループ「札幌科学談話会」と札幌市博物館活動センター、札幌市中央図書館が協同で「サイエンス・コンソーシアム札幌」を起ち上げました。

これは、自然科学の「ホットな話題をやさしく・深く・おもしろく」市民に伝えたいという札幌科学談話会から博物館活動センターに企画案が持ち込まれたことがきっかけとなったものです。現在、科学談話会のメンバーが自らの人脈をたぐって講師に交渉し、科学の最新の話題を市民にわかりやすく解説する「サイエンス・フォーラム in さっぽろ」を年5～6回実施しています。



(4) 展示

展示室は、札幌の自然のなりたちを紹介する常設展と企画展のコーナーがあり、企画展では市民が企画した展示を公開するi（アイ）・ミュージアム⁴の取組が実施されているほか、引き出しを利用して遊びの要素を取り入れた展示などもあり、リピーターやファンもいます。

しかし、展示スペースの狭さから団体利用には対応できず、また立地上のわかりにくさもあり、博物館活動センターの認知度自体が低く、市民には浸透していない点が課題です。

⁴ i・ミュージアム：札幌市博物館活動センターで展開してきた市民による持ち込み企画による展示。市民が自然について調査・研究、製作した資料・素材・企画アイデアを持ち込み、学芸員が専門的な面で助言、共に展示製作を行う。「札幌市博物館計画推進方針」に基づき、市民とのパートナーシップを象徴する活動として「出会い・ふれあい・わかちあい」をキーワードに実施。

(5) 活動全般

十分な展示スペースがないというハード上の制約がある中で、市民とともに収集や調査などの活動を広げてきた実績は強みとしてあげられるものの、外国人や障がいのある方などに対する利用しやすさへの配慮は不足しています。

また、周辺の文化施設や観光資源、自然資産などとのネットワークは構築しきれておらず、それらとの連携も十分とはいえません。

さらに、札幌には北海道大学総合博物館や北海道博物館（旧北海道開拓記念館）があるものの、札幌に焦点を当てた博物館ではなく、札幌市民が郷土の自然・歴史・文化について深く学び、札幌を訪れた方にその魅力を十分に伝える場がないという課題もあります。

【表：これまでの博物館活動センターでの活動の強み・課題と今後必要な取り組みのまとめ】

項目		強み・課題	今後必要な取り組み
収集・保存	強み	収集点数の豊富さ	資料の活用に向けたデータベースの構築 保存管理技術者の配置
	課題	収集資料の分野の偏り	札幌の自然・歴史・文化を明らかにするために必要な分野の資料収集技能をもつスタッフの拡充
		収蔵スペースの狭隘化	収蔵環境と収蔵スペースの確保、増設の検討
調査・研究	強み	様々な角度からの体系的な調査・研究	他機関との協同研究の拡大推進
		調査への市民や子どもたちの参画	市民参画のさらなる拡充
	課題	研究分野の偏り	自然史分野を中心に必要な分野の学芸員の配置 フィールドの拡大及び協同研究の推進
		収蔵スペースの狭隘化	収蔵環境とスペースの確保、増設の検討
普及・交流	強み	市民参加型の普及交流活動の精力的な展開	市民参加の拡充、市民ニーズの把握、世代別、目的別等多様なプログラムの創出
		収集活動への市民参加	市民参画のさらなる拡充
	課題	見学者数の減少	魅力的な展示やプログラムを創出し実施する学芸員配置と博物館の整備
		多様な分野や目的に対応したプログラムが提供できていない	普及・交流担当等、専門職員の配置
展示	強み	リピーターやファンの存在	リピーターやファンの拡大、継続した魅力的な事業活動の創出と活動環境の整備
	課題	団体利用への対応ができない	学校等団体対応の可能な施設・体制の整備
		博物館活動センターの認知度の低さ	施設外でのアウトリーチ ⁵ 活動の積極的な展開 PR 活動の活発化
活動全般	強み	ハードに頼らず、活動を広げてきた実績	既存の博物館の概念に捉われない活動の展開
	課題	ネットワーク機能の不足	周辺の博物館関連施設とのネットワークの構築 ネットワークの一拠点としての機能整備
		利用しやすさへの配慮の不足	外国人、障がい者等あらゆる利用者が博物館のサービスを楽しめる環境の整備
		札幌の独自性を知るための博物館がない	札幌市にふさわしい博物館の整備と市民利用の視点に立ったサービスの提供

⁵ アウトリーチ：英語で「手を伸ばす」。公共施設による地域への出張サービス等を言う。本計画では、学校への出張展示等、博物館に接する機会を館外で提供する活動をいう。

2. 急速な社会環境の変化 ～社会的背景～

私たちを取り巻く社会的背景を、国内、札幌市、博物館に分けてまとめました。

(1) 日本国内をめぐる状況

- 東日本大震災や集中豪雨などの自然災害によって人命や文化財等が失われる経験を経て、人と自然との関わり、環境、資源・エネルギーの利用のあり方について、国民全体が強い関心を寄せています。
- 外来生物の影響⁶の顕在化や在来生物との共存など、生物多様性⁷への社会的関心が高まりを見せています。

(2) 札幌市をめぐる状況

- 少子高齢化の進展に伴い高齢単身世帯が増加し、孤立しがちな人が増えることや、地域での付き合いや交流の減少などによる社会との関わりの少ない市民の増加が懸念されており、地域コミュニティの活性化や高齢者の活躍の場づくりなどが求められています。

(3) 博物館をめぐる状況

- 平成18(2006)年の教育基本法の改正により、博物館は、あらゆる世代の市民が交流し、街の魅力を探求し、活力ある地域づくりに参画することで地域の教育力を向上する機能を持つことが期待されることになりました。また、それを担う職員の専門的能力の向上も求められています。
- 教育目的のほかに、文化や観光の役割を持った公立博物館が増えています。

⁶ 外来生物の影響：人間活動に伴い自然分布の境界を越えて、生息域を広げた生物種（外来生物）が、侵入・定着した地域でもともと生息していた種（在来種）の地域個体群の維持や産業等に与える影響（例：在来種を捕食、病原菌を持ち込む、牧草地に侵入し農業の効率を下げる等）。特に影響が顕在化している種類は、外来生物法により特定外来生物に指定されている（例：オオハンゴンソウ）。

⁷ 生物多様性：地球上の生物種とその生息環境の多様さを示す概念。人間活動による環境変化を受け絶滅する生物種は多く、札幌市は平成25(2013)年に「生物多様性さっぽろビジョン」を策定。

3. 札幌博物館の使命

これまでの博物館活動センターの活動の成果と課題、社会的背景を踏まえ、札幌の未来に貢献することを念頭に、札幌博物館の使命と、その実現のために必要なことをまとめます。

使命1：札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む

人と自然との関わりについての関心が高まっていますが、札幌の人と自然については、これまでその全容は明らかになっていません。札幌博物館では、札幌の資料を収集・保存、調査・研究し、その成果を展示などを通して市民に伝え、広げることによって、札幌の自然・歴史・文化の独自性を明らかにし、札幌市民としての愛着と誇りを育んでいく役割を担います。

【使命の実現のために】

札幌の独自性を明らかにしていくためには、研究分野の偏りを解消し、収集・保存した資料を、様々な角度から分析していくことが求められます。そのためには、幅広い分野の高い専門性を持った職員が調査・研究を行い、収集した資料を未来に継承していく必要があります。

使命2：創造性あふれる人材の育成

札幌博物館が生涯を通じた学習の場となるよう、市民による自主的な博物館活動を支援し、札幌の魅力を高めていけるような創造性あふれる人材を育成します。

【使命の実現のために】

市民による創造的かつ自主的な博物館活動をより活性化させ、交流を促進させていくには、市民が多くのお会いによって様々な情報や刺激を得ることが必要であり、そのためには、活動の場を札幌博物館だけで完結させるのではなく、市内の関係機関や自然資産など札幌全体へと広げていくことが有効です。そこで、札幌博物館と関係する機関が結びつきを強め、多様な活動を展開するためのネットワークを構築していく必要があります。

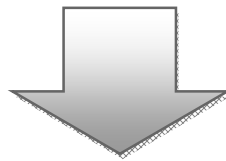
使命3：自然と人の観点からまちづくりに貢献

あらゆる世代の市民が集い、交流する場として、活力ある地域づくりに寄与していく活動拠点となっていきます。また、博物館活動を通じて得た、自然と人との関わりに関する知見を市民みんなで共有し、環境保全などまちづくりの分野に活かすほか、多くの方に札幌の魅力を発信することでにぎわいを創出し、観光資源としての役割も果たしていきます。

【使命の実現のために】

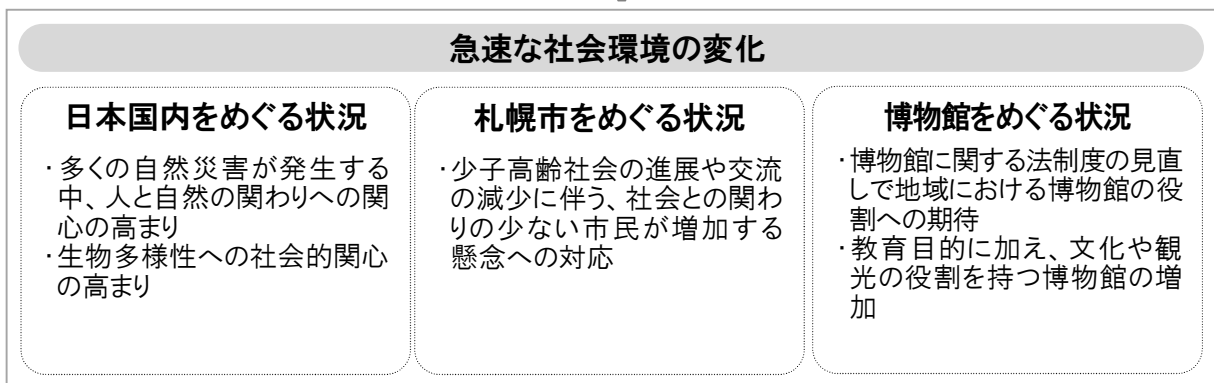
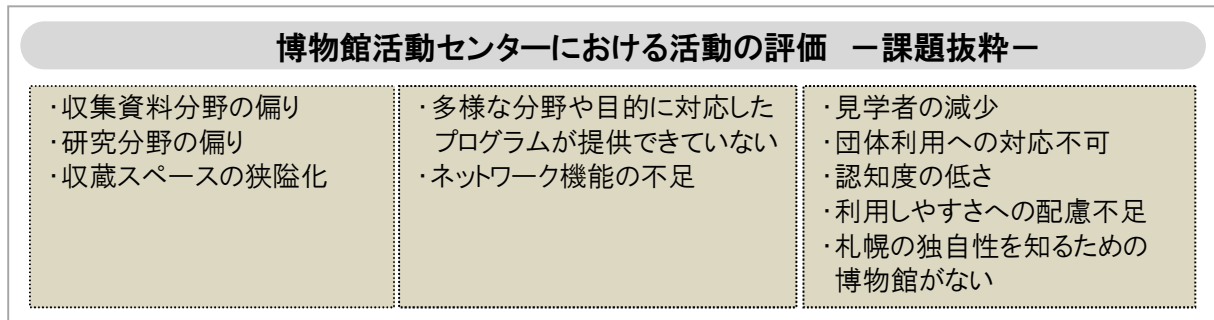
自然と人の関わりに関する知見をより深め、その成果を多くの人々に発信し、にぎわいを生み出していくためには、調査・研究を推進していくための充実した環境と、その成果をダイナミックに伝え、訪れた方に感動を与えることのできる機能を併せ持つ、新しい拠点が必要です。

これらの使命を追求していくために

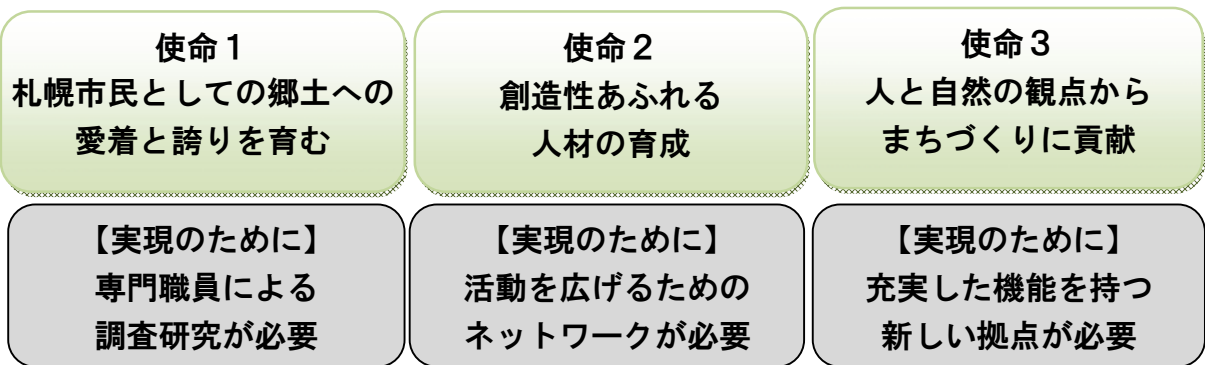


市民みんなで、
札幌の「自然と人の関わり」を探究し、
札幌の未来に向けて進化・発展し続ける博物館が必要

【第1章のまとめ】



札幌博物館の使命



これらの使命を追求していくために

市民みんなで、札幌の「自然と人の関わり」を探究し、札幌の未来に向けて進化・発展し続ける博物館が必要